

令和3年度第7回天童市教育委員会について（報告）

日 時 令和3年10月20日（水）午前9時58分から11時37分まで
場 所 天童市教育委員会 第1会議室
出席委員 相澤一彦教育長、工藤昭広委員、村山晴香委員、松村昌子委員、
大内あゆ子委員
出席者 武田文敏教育次長兼教育総務課長、町田真裕学校教育課長、
矢萩茂生涯学習課長、大沼敦学校給食センター所長、
事務局（教育総務課職員）

議 事

議第19号 令和3年度天童市教育委員会感謝状贈呈について

報 告

（1）教育総務課

ア 中学生副読本「市民科」の内容及び今後の活用について

（2）学校教育課

ア 学校におけるタブレット端末等ICT機器活用の現状について

各課からの連絡

（1）教育総務課

- ・村山特別支援学校天童分校（津山小）の教室対応について
- ・小学校トイレ改修工事の進捗状況について

（2）学校教育課

- ・教育委員会学校訪問（天童中部小学校）について

（3）生涯学習課

- ・天童市生涯学習フェスティバルの開催について
- ・令和4年新成人を祝う会の開催について
- ・令和3年新成人の集いの開催について
- ・教育委員会行政視察について

（4）学校給食センター

- ・11月の特別献立について

<教育長あいさつ>

おはようございます。新型コロナウイルス感染症は、まだまだ予断を許さない状況であります。正確な情報を得ながら、慎重な対応をしてまいります。

総合教育会議を10月29日に予定しています。教育大綱の基本目標の年度前期の進捗状況について、各課から報告します。また、中学生副読本市民科について、概要を説明させていただきます。それから、ICT機器の活用について本市はおかげさまで大変進んでおり、山口小学校に県議会から視察訪問を受けました。現況を詳しく担当の方から説明します。

次に、本市の教育の柱について、教育力の向上をもっと貪欲に、天童に来るともっと勉強ができるようになるよ、というようになればいいなあと感じています。英語教育は、ちょっとICTに光が当たっているところがありますが頑張っていきます。それから、特別支援教育、生徒指導の充実、いじめ不登校については、永遠の課題です。道徳教育の中では、特に情報通信モラル、SNSの中でのいじめというものもあります。また、郷土愛、これは副読本と関わりますので新たに力を入れたいところです。

結びに、昨年度のいじめの集計ができました。山形県は、千人当たり114人。これは、全国1位です。これまで3位だったのですが、県は積極的な認知の結果であると話ありましたが、この対応は、常に課題にしていかなければならないと思っています。

10月1日に、村山教育委員に辞令を市長から交付いただきました。教育委員会の新しい年度に入りましたので、より一層みんなで力を合わせていきたいと思いません。

< 議 事 >

議第19号 令和3年度天童市教育委員会感謝状贈呈について

<可決する>

審議経過

特に質疑なし。

< 報 告 >

(1) 教育総務課

ア 中学生副読本「市民科」の内容及び今後の活用について
意見等

大内委員： これは、目で見るだけでなく、音声でも読み上げるか。

教育次長： 音声は出ませんが、例えば市民歌などは曲を聴くことができる。リンク先が、音声対応をしていれば聴くことができる。

大内委員： もし、音声が出るのであれば、天童を愛する歌詞がとてもいい天童温泉小唄が聴ければいい。そういうものに、子どもたちは触れる機会が少ない。聴けたら天童にもこういう歌があるんだということがわかっていい。

松村委員： 忙しい中で、天童とじっくり向き合う時間がなかなか取れなかった。

例えば、父母と一緒にこの本を見て授業参観をやれば一緒に学べるし、家庭学習でも見ることができる。祖父母も親も、自分のまちをじっくりと知ろうとすることが難しくなっている。子どもと話し合ったり、実際に行ってみたり、いろんなことがこの本の中から生まれてくる。

村山委員： 郷土愛にあふれる本になればいい。実際に製作に携わり、改めて友情の育み方がわかった。

自由研究で、天童を知る社会研究などに使ってもらえたらうれしい。わざと情報を抜いた部分は、自分で調べるようになっていく。イバラトミヨとか研究してみたいという子どもが出てくるといい。

工藤委員： 中学生向けにという意味で素晴らしいものが出来た。時代に合わせてタブレットでいつでも見られるということもある。動画は入っているか。

教育次長： 将棋の駒つくりは、その動画が見られるようにリンクされている。

工藤委員： 動画で声が出て、今の子どもたちはユーチューブを見ている感覚がすごく広まっている。そういうのが入っていると、とても面白い。

教育長： 工藤委員の話聞いて、これをきっかけに、中学生が動画編集をしていくのも面白い。天童はこういう所です。というような流れで、これはいいなあと思った。

(2) 学校教育課

ア 学校におけるタブレット端末等 I C T機器活用の現状について 意見等

大内委員： 小学校を見学して、子どもたちは集中して楽しくやっていると拝見した。気になるのは、タブレットの使用で視力の低下と斜視になってきているというニュース。また、姿勢が猫背になってしまうのがすごく気になった。タブレットを片付けるときに5秒だけ目を瞑って、姿勢を正して深呼吸すると、たった5秒だけでも目の疲れが取れる。

松村委員： タブレットを使うことで、授業風景ががらりと変わったように思う。タブレットがないときは、先生と子どもしかいないので、先生だけを見ていれば、姿勢も反応も良くストレートに語り合うことができていた。I C T機器が入り、人間関係がワンテンポ遅れるという感じがした。しまりというか、違う次元の授業になっていくのかと思いつつ見ている。新しいツールが入り、授業のスピードやリズムが変わってきたことで、どのように人間関係や知識の吸収力が変わっていくのかが大変重要なのではないかと。

また、子どもたちが自由に自分の世界で授業をやるのだが、集合体としての授業はどのような方向にいくのか。その辺が変わってき

ているのでこれからも見ていきたい。

学校教育課長：先生が黒板の前に立って説明したものを覚えて問題を解けることをよしとしていたのが昔の授業である。それが今は学び合いとか、話し合い活動へ変化し、ここにタブレットが入ることで大きく方向性が変わり授業感も大きく変化した。

一人ひとりが、個人の力を伸ばしていく。自分の持っている力を最大限に伸ばしていくという目標があるが、ただ一人で黙々と頑張ればいいのではなく、ほかの人とも頑張れることが今の授業スタイルだ。そういう面では、まだ不十分であって個人がクローズアップされ、子どもたちと教員がお互い学び合うことをどう膨らませていくか、そこが課題としてある。

村山委員： 子どもがタブレットを使って、グループで田麦野のCMを作るという作業をしていた。自分たちが撮った写真や音楽を、どういう順番で表現すれば田麦野のいいところを表現できるかというのを一生懸命やっていた。また、背景が木だったら茶色の文字は見えにくいねとか、細かいところまで考えてやっていて感心した。

ただ、保護者の中でも目の健康が気になっていて、家でのメディアの時間もあり、一日の中でタブレットを使う授業の構成が重要になるのではないか。

また、授業一時間ずっと使うのではなく、ある場面だけ調べものに使ってみるとか、インターネットに依存しない訓練が必要。

学校教育課長：今は、タブレットを使わなければならない雰囲気だが、わからない言葉が出た時に辞書を開くように使う。頭の中で自分の考えがまとまらないから、タブレットでまとめるという使い方をするのが究極の目的。使うことが目的ではなく、勝手に使い始めていくようになると、オンオフがはっきりしてくると思う。

工藤委員： 今は、学校でどんどん使ってプラス面になる部分を見つけていくことが大事。将来、必ずこれはこういうふうに使えばいいんだということが、先生も子どももわかってくる時が来る。その時に、違う角度で論じればいい。

ただ、体験をすることが今の子どもたちは不足している。タブレットに頼るのではなく、自分で描いてみたりメモを取ってみたりすることも大事にしてほしい。

教育長： その他意見なし。

以上で第7回教育委員会会議を終了します。